

大使からの活動報告 2016年2月号

2016年2月27日現在
在グアテマラ日本大使館
特命全権大使 川原 英一



◆当地主要紙による日本レポート特集

1月号で一部紹介しましたが、当地主要紙エルペリオディコのフリア・コラード編集責任者が、昨年12月、日本政府の記者招聘プログラムで訪日し、帰国後に日本特集の形で同紙1月17日付を皮切りに、同24日、同31日、2月7日付と続々



と報告しており、連続4回に亘って、毎回、見開き両面記事の形で特集記事を掲載し、幅広い分野で、日本の様々な姿を報じています。特に、1月24日付当地主要紙エルペリオディコ紙の日本特集は「日本:技術の最先端」との大見出し入り(左上)で、2頁を割いて以下の興味深い内容の記事を掲載して



います。日本の技術革新の最近事例として、①京都大学 iPS 細胞研究所の山中伸弥教授を中心とするチームが、再生医療に取り組み、心臓病、糖尿病・痴呆症・パーキンソン病など難病の治療法確立に向けて研究している、②大気汚染物質排出がゼロとなる水素を利用して動く自動車体験、③ロボ・ケアセンターでの開発現場の視察、④世界一高い電波塔であるス

カイツリーと同電波塔内のデジタル放送施設の視察、⑤JAXA では、金星観測衛星「あかつき」、小惑星探査機「はやぶさ2」、科学研究・気象予報のための衛星「おおすみ」などを紹介しています。また、2月7日付同紙日本特集は、「環境・自然災害の軽減のための日本の取り組み」との大見出し入りで2頁を使い報じています。日本が、途上国での環境教育、水質保全、水資源利用、再生可能エネルギー利用に関連したプロジェクト実施に協力していること、JICA 北岡理事長と懇談した際、日本が環境及び災害復興などの重要かつ緊急案件に熱心



に取り組んで、支援を受けた途上国から高い評価を得ていると述べたこと、地震や津波など災害の事前感知と早期警戒システムの構築、当該地域への自動的な情報発信を行っていること、川崎市の太陽光発電所や再生紙工場、プラスチックなどのリサイクル施設などを紹介しています。

さらに特集記事とは別に2月15日付同紙は、経済面トップ記事扱いで「日本は中米とのビジネス関係の拡大を検討中」との見出し記事の中で、小島経団連中南米委委員長とのインタビュー記事を写真入り(左側写真)で大きく報じています。

◆2月5日午前：草の根プロジェクト署名式



2月5日、当大使館で、地元での実施協力団体であるカステージョ・コルドバ財団との間で、ソロラ県での当大使館草の根協力による中学校校舎建設プロジェクトの署名式がありました。この署名式には、同県ツナ村落中学校の校長・教員および生徒代表の皆さんが参加してくれました。この中学校は、これまで



校舎がなく、小学校校舎を借りて授業をしてきていました。当方から、生徒達が勉学に専念できる学校環境の整備が出来るだけ早く実現するよう地元関係者の御尽力を大いに期待していますと申し上げました。



同学校などで、17年間教師をしておられる男性教員から学校を取り巻く地元の事情についてお話をうかがいました。生徒の読解力と算数・数学の能力向上が課題であること、また、子供の教育と貧しい家庭を子供が助けるということの兼ね合いに難しさがあるようです。また、日本が協力した算数教科書を小学校で使用していますと生徒が語ってくれました。

◆天野 IAEA 事務局長の当地訪問

2月2～3日に当国を訪問した天野・国際原子力機関（IAEA）事務局長は、エネルギー大臣、外遊中の外務大臣の代理であるマルティネス外務次官と懇談された。IAEAが支援している地中海ミバエ対策研究施設などを訪問され、また、IAEAとしてジカ熱対策支援に取り組む意向を明らかにされた。天野事務局長は多忙な日程を積極的にこなされて、次の訪問先メキシコへ御出発されました。



◆カブレラ副大統領との会見



2月中旬、カブレラ副大統領とお会いする機会がありました。来客が多数ある中、副大統領の御配慮で、執務室で比較的ゆっくりとお話が出来ました。副大統領への御就任のお祝いを申し上げた上、当方から日本による当国への支援の全体像について申し上げました。特に、医者出身であり、国立大学学長として経験豊かな副大統領の御関心が高い、プライマリーヘルスケア、栄養改善、教育の質向上関連での、これまでのわが方支援を中心に、防災分野などでの人材育成支援などもお話しました。また、同副大統領から、新政権の目下の課題についても伺いました。副大統領は、日本のこれまでの支援・協力に大いに感謝をしていると述べられておられました。

◆農牧大臣の御来訪



2月中旬、メンデス農牧大臣が、就任挨拶を兼ねて当方と懇談のため、日本大使館にお越しくださいました。メンデス大臣は、日本の戦後の驚異的な経済発展や途上国支援に極めて指導的な立場にあることについて、かねてより敬服、感銘を受けていますとの発言がありました。また、新政権下での農業政策、特に、貧困農民への対応などについてお話を伺いました。当方からは、これまでの日本のグアテマラへの貧困農民への支援と現状などについて、お話をしました。

◆新たな外務次官3名のお披露目式



2月12日昼、外務省で当国駐在各国大使らと3名の新外務次官(※当国では、大臣の次は副大臣ではなく、即、次官となります)らとの顔合わせ会合ありまし



た。マルティネス外務次官(右上写真の左端の方)のみが留任で、新外務次官3名には、いずれも女性が起用されました。アナ・ディエゲス次官(前パナマ大使で移民・領事担当:左上写真)、サンドラ・ホベル次官(経済・経済統合担当:右横写真)、アリシ



ア・カスティージョ次官(官房・文化・観光担当:左写真)の3名です。いずれの方もこれまでから、外務省で勤務経験のある方ばかりです。同省は、職員の約7割が女性職員です。今回の外務次官人事の結果、女性職員の士気が高まることにつながること

を外務大臣が期待された結果かも知れません。

学習発表会(日本人学校)

2月20日(土)午前中、グアテマラ日本人学校で学習発表会があり、拝見しました。小学生から中学生まで、それぞれに大変に工夫された学習発表の企画でした。児童・生徒さんから、この1年間の学習成果について、大変に素晴らしい発表がありました。子供たちの1年間の成長が著しいことがよく分かりました。また、二分の一成人(10歳)式という、とても良い企画もありました。日頃の日本人学校先生方による行き届いたご指導の賜(たまもの)と思われま



防災・リスク軽減ワークショップへの参加

2月26日、国家災害対策調整委員会(CONRED)本部で各国研修体験の共有ワークショップがあり、冒頭、当方から日本の技術協力による研修実績や協力隊員の活躍、また、国費留学生制度の現状などについてお話をしました。この会合を企画されたマルチネス博士は、元国費留学生であり、かつ、JICA 訪日研修の経験がある方で、元研修生の会(AGUABEJA)会長として、現在活躍をされています。



会合参加者は、大学、NGO 代表及び CONRED 関係者であり、経験交流のみならず、今後の活動連携を模索するものであったようです。

CONRED では、神戸での防災分野での研修の成果として、当国独自に具体的な防災マニュアルが2013年に策定されており、その後も、改定版が作成されています(右横写真)。同マニュアルを利用したカエル防災キャンペーンは、これまで全国の小中学校で実施されており、大変人気があります。このマニュアルは、CONRED のウェブサイト防災教育ツールとして掲載されていますので、誰もが利用することが可能です。全国の小・中学校の教師が、自主的に利用できるよう具体的、かつ、分かりやすい内容となっています。(了)

